

神戸・大阪巡検（2月1～3日）

今回の巡検のテーマは、大都市のかかえている住宅や都市災害の問題を、東京と比較しながら考えてみることであった。

2月1日、12:00。新神戸駅に集合。駅には私達の大先輩の藤岡ひろ子先生が待っていて下さった。藤岡先生の案内で神戸港へ。神戸は、南は大阪湾、北は六甲山地にはさまれ、南北の幅は広くても2kmという狭い土地に位置しているため、街は東西に発達し、南北に走る道路はすべて坂道だ。港の見学の後、明治の面影が所々に残っている街並を見ながら、坂道を上って山本通りへ。洋館が並びいかにも神戸らしいたたずまいだ。本町へ出て国電で須磨の国民宿舎に向かった。

2日目、朝から小糠雨のそぼ降る寒い一日。戦前の財閥村であった住吉の観音林。昭和13年の大洪水の記念碑。六甲の山腹を大規模に切り崩して造成中の渦ヶ森住宅地。芦屋の六麓荘町の高級住宅地などを見学した。藤岡先生、神戸女学院の小林先生、神戸大学の田中先生が一日中私達と同行して下さった。なぜ観音林や芦屋が高級住宅地になったのか、昭和13年の大洪水の後、どのような土地改造によって洪水を防いでいるか、六甲山腹に造成中の住宅地の問題点は何か、等々、4人の先生方に細かく説明していただいた。又、私達の方からも自由に活発に質問が出された。

3日目、須磨から国電で新大阪駅へ。駅周辺の再開発が進んでいるようすを見た。それから日本の田園都市運動の始まりである千里山住宅地、その北に大規模に広がる千里ニュータウンを見学した。第一次世界大戦後の好景気を背景に、大正9年から8年かかって完成した千里山住宅地は、日本の山の手住宅地の典型となった。第二次世界大戦後、中産階級の増大、大都市の人口集中によって現われたのが、高層アパート群からなるニュータウンである。千里山住宅地と千里ニュータウンは戦前、戦後の社会構造の変化に伴う住宅地の変化であろう。

ある場所に、ある物が立地している。なぜそこに立地しているのか……と一瞬立ち止まって考えることによって、いかに多くのことに気付くものだろう。関西になじみが薄く、今まで東京の方が大阪よりもすべて進んでいると思っていた私にとって、今回の巡検で眼が開かれる思いだった。寒い中で巡検であったが、よく歩き、観察し、そして考え、地理学的な物の見方が一段と深まったような気がする。

（正井先生指導 2年 宇津巻陸子）

三陸巡検（9月5～8日）

まだ暑さの酷しかった9月5日夕刻、私達の三陸巡検が始まった。今回のテーマは「三陸の養殖業と防災対策及び製鉄業について」というものであり、この3泊4日の巡検は次のような経過をたどっ

た。

5日。18:00山田線宮古駅にて集合。宿舎に直行し、食後にミーティング。なごやかな雰囲気の中にも、皆やや緊張と期待の面持で明日の予定に耳を傾ける。

6日。身障者の車イスも通れる螺旋状の歩道橋を渡り、まず、宮古市役所へ。係の方々が、養殖中心の水産業のこと、第4次港湾計画に基づく新宮古港の現状と将来像のこと、さらに防災対策としての防潮堤・消波堤のことについてご説明くださった。その中で、現在でも20m以上の津波は防ぎようがなく、ただ逃げるようにと指導できるのみだ、ということを知り、東京の地震にまさるとも劣らぬ恐ろしさに愕然とすると同時に、このような対策にも、将来、地理学の関与すべき役割があることを感じた。市役所での活発な質疑応答の後には、浄土ヶ浜から遊覧船で田老へ。船上からは海岸地形の複雑さや、養殖のブイが観察できた。田老に着く。予備知識は多少あったにせよ、海岸ぞいに灰色に続く物々しい防潮堤の偉容は想像をはるかに越えるものであった。まるで中国の城壁都市を思わせた。次に、磯鶏・藤原海岸に行き、宮古の宿舎にもどる。

7日。早朝、災害洪水水位標を見る。次に、バス停近くの水産加工の現場で、わかめ加工法を熱心に聞き取る。ここでサービスしてくれた生わかめの美味には皆感激。山田町へ。日曜にもかかわらず、山田町役場では宿直の方が町の近況を話してくださった。宮古と釜石のベッドタウン化し、人口は増加しているという。「山田湾は海の十和田湖です。」と語るその様子に限りない郷土への愛着が感じられた。大槌川付近を見て釜石へ。釜石——さすがに単一企業都市である。駅に降りるや否や、もくもくとたちのぼる煙、高く太い煙突をもつ真っ黒な新日鉄工場が、視野のほとんどを占め、威圧感をもってせまる。すぐ宿舎へ。

8日。釜石大観音から町を眺望し、市役所へ。新日鉄が町に果たす役割や、漁港と工業港の両方を兼ねる平田港について聞く。次に新日鉄へ行き工場見学。さらに釜石鉱業所へ行き、鉄山を見学。次に市内に戻り新日鉄の旧社宅・旧購買部をみたあと、街頭で総括をし、16:15解散。暑さの中にも秋の気配を感じさせる東北の山々をあとに、意義深い三陸巡検を終えた。

(内藤先生指導 2年 磯前厚子)

東京巡検 (2月28～3月2日)

後期試験が終わってまもない2月28日～3月2日、2・3年生合同の東京巡検が行なわれた。テーマは「東京の歴史地理、都市景観、生活環境」であった。

2月28日。9:30、御茶ノ水聖橋に集合。御茶ノ水付近についての説明の後、神田明神、湯島天神へ。この付近は武蔵野台地の末端にあたり、土地の起伏が多い。神社は台地の末端の目だつ場所に立地している。上野を経て神田、秋葉原方面へ向かう。上野は江戸の町の北はずれであったが、現在は文化施設が集まり、また戦後の闇市から発達したアメ横など活気にあふれている。神田、秋葉原は卸売地区である。東京の台所として重要な役割を果たしている神田市場を見学した後、日本橋へ。